

1968 6.11

# 沖縄含む日本全土

## 「核」から解放を

### 科学者京都会議 コミュニケ



記者会見する科学者京都会議の湯川秀樹氏(左)と朝永振一郎氏(東京・都市センターで)

科学者京都会議の湯川秀樹氏(左)と朝永振一郎氏は、八日から三日間、東京都千代田区千代田の日本都市センターで沖縄問題などについて、記者会見を開いた。十日午後五時半から記者会見して「沖縄の復帰が一日も早く実現し、それと同時に沖縄を含む日本全土が「核」から解放されるべきである」とを、あらためて痛感したとのコミュニケを発表した。

科学者京都会議は科学と平和に関する問題を論議する場として昭和三十七年に結成されたもので、湯川教授ら物理学者のほか法学者、文芸者なども参加、これまで日本会議と勉強会をそれぞれ三回開いてきた。

この日の勉強会では討論家の中野好夫氏が「戦後、沖縄は安んずる制のもとアメリカの種族差別のなかにますます深くめり込み、ベトナム戦争の激化とともに、攻撃基地の標的を示した」と痛感

「安全保障と復帰の問題は住民不在のもとで議論すべきでない」と主張した。

また、大田昌秀琉球大学教授は、本土の人たちの沖縄に対する意識が、現実とはいささかずして、ある軍事的に偏った「核」の隣に生きることを強いられている」と述べた。

永積安明神戸大学教授は、沖縄と本土の間には歴史的に互に人的な連帯が切絶された状態が繰り返されてきたが、それにもかかわらず、言

語や文化は混同していることを指摘し「本土と沖縄との人的な連帯は、このように現実をふまえてこそ、根拠的に回復され、強化されるだろう」と述べた。

なおこの勉強会では佐世保実業放物館事務も取上げられ、湯川教授は記者会見で「われわれは、原子力貯蔵の危険なものに不費成である。原爆だけでなく「核」全般について根本的に考える必要

がある」と語った。

- 勉強会の参加者は以下の通り。
- ▽名大理学部名誉教授山本謙孝(物理学)▽東大教授江口朴郎(歴史学)▽元法政大教授大内兵衛(経済学)▽琉球大教授大田昌秀(社会学)▽学習院大講師久野取(哲学)▽名大理学部長坂田昌一(物理学)▽東大教授坂本義和(国際政治学)▽評論家田中慎次郎(原子力・国際経済)▽前法政大総長谷川徹三(哲学)▽京大教授
- 渡田畑茂二郎(国際法)▽東京教育大教授朝永振一郎(物理学)▽評論家田野好天(英文学)▽神戸大教授本橋安明(国文学)▽東大教授野上茂吉郎(物理学)▽日本学術会議会員福島要一(農学)▽京大教授松井清(経済学)▽東京教育大教授三宅泰雄(地球化学)▽立教大教授吉沢俊(憲法)▽京大基礎物理学研究所長湯川秀樹(物理学)▽東大名誉教授藤澤栄(民法)